

ネットワークを広げましょう

青森県支部 理事長 小玉 有子



今年度は、春から新型コロナウイルス感染症(以下コロナと記す) 対策に振り回された半年でしたが、9月末日をもって国の緊急事態対応も解除され感染者数も激減し、県内にも安堵の空気が感じられるようになりました。皆様の学校では、落ち着いた2学期(後期)をむかえられているでしょうか。

コロナの影響については、まだ検証は不十分ですが、様々な変化が報告されています。オンライン授業を行った学校では、今まで不登校だった子が、授業に参加できるようになったという嬉しい報告がある反面、友達を作れない子が増えたとか、家庭内でもトラブルが増えたという報告も耳にします。オンライン授業によって学力差が大きくなり、対面授業に戻ってから指導が大変だったということもあるようです。また、友人と遊べない、おしゃべりできない、一緒にご飯を食べられない、長い我慢の生活に鬱傾向になっている子もいるようです。このような状況に、先生方はどのように対処していらっしゃるのでしょうか。様々なご苦勞を感じていらっしゃるご様子とお察しいたします。

しかし、このような時だからこそ、課題を明確にし、知恵を出し合い、危機的な状況から一步を踏み出す方策をみんなで考えていけたらいいと思います。そのためにも、会員の皆様には、タイムリーで良質な研修の場を提供できますよう、今後も努力してまいります。

青森県支部ではコロナ渦を乗り切るためZoomを積極的に活用してきた結果、様々な研修会や会議が地元で居ながらにしてできるようになりました。交通の便の悪い青森県にあっては、会員のメリットは大きいと考えています。このスキルを大いに活用して、研修会や小グループで行う事例研究会も開催したいと企画しております。さらに青森県支部だけではなく、北海道・東北ブロックの研修会の情報も、積極的に配信できたらと考えています。会員の皆様も、折にふれて学会や支部のホームページをチェックしていただき、研修会の情報をキャッチしてください。

今後は、会員が気軽におしゃべりして、相互相談ができるような場も作れないかと思案しているところです。よいアイデアがありましたら、会員の皆様からご提案ください。

7月末、青森県学校教育相談研究会と共催で研修会を開催することができました。関係各位、ご参加いただいた皆様には、本当に感謝しております。ここ数年研究会とは協力しながら一緒に歩んでまいりましたので、研究会が今年度いっぱい発展的解消となるというお話を伺い、寂しさを感じています。しかし、教育相談を共に学んだ仲間のネットワークがなくなるわけではありません。これからも、私たちのネットワークに若い方もお誘いしながら、ネットワークを広げていけたらと考えています。

来年度には、生徒指導提要が改定になるという情報があります。新しい提要では、教育相談コーディネーターを中心に、積極的に子どもたちを育てるという視点が盛り込まれるようです。問題に対処したり予防したりするだけでなく、積極的に育てるとなると、教員にも様々な知識やスキルが必要になるでしょう。新しい価値の中でも、会員相互がサポートし合えるネットワークがあったら良いと思われませんか。私もそろそろ高齢者の仲間入りをしそうですが、微力ながら若い方のサポートや皆様のネットワーク作りのお手伝いをさせていただきたいと思っています。 コロナ渦だから、集まれないけれど、一緒に飲めないけれど、それでも繋がる方法はきっとあります。オンラインかもしれませんが、みなさまと繋がれる日を楽しみにしています。

令和3年10月 5日